

佳作

自分を育てる

鹿児島県 種子島中央高等学校二年 藤田 優

最近のニュースを見ると、殺人事件やいじめ、自殺など胸を痛めずにはいられないものが多くなっていると感じる。私はこのような世の中の有り様について「現代社会には色々な問題があるけれど、命を粗末にするような事件が多いことは何より悲しいことだ」と思う。こういういった中で私にはとても気になることがある。それは、近年自殺する子供が増えたことだ。実際にそういった事件の特集をテレビで見ていると、友達付き合いでの悩み、いじめ、喧嘩など私の周りでもよくありそうなことが原因の一つらしい。

私は死にたいと思うほどの悩みを持ったことはないが、友達付き合いというのは本当に難しいものだと感じている。人と付き合い合うということは、生きていく上でとても大切なことであり、そのことによって得られる充実感も素晴らしいものだろう。この機会に自分が他人とどのようにつながり、触れ合っていくべきか、もう一度考え直してみた。

私は高校生になった頃から、人間関係でよく悩むようになった。入学してすぐというのは、違う中学の子など新しい友達にも出逢い、色々な性格の人と出逢う時期だ。私にとって苦手だと感じるタイプは、何事も自分中心で物事を考えたり、自分の思いを隠したりする子だ。でもそれはその人の個性であって短所ではない。そうだと分かっているとしても、なかなか受け入れることができていない自分がいた。きっとそれは相手の問題なのではなく、相手を理解しようとしなくて私の方が問題なのだ。そのことに気付いてからは、少しずつではあるが相手の良いところ、気付けることが出来ている。相手を理解しようとすることは、自分自身を理解してもらうことに繋がる大切なことだと改めて考えさせられた。

人間関係で悩むのはみんな同じだと思う。例えば、嫌われるのが怖いから、という気持ちで相手に合わせるという経験が誰にでもあるのではないだろうか。人はどんなに仲が良くても、意見や考え方が一緒だとは限らない。中学校の頃の私は、意見が違えば友達とすれ違ってしまふと思っていた。しかし今では、そんな付き合い方では絶対にだめだと考えるようになった。本音を言えてこそ本当の友達なのだから、本当に思っていることを伝えずにいるのは相手にも失礼だと思う。自分だってすっきりしないまま生活しなければならぬだろう。そんな風に考えることができたのは、ある一人の友達と出逢えた

からだと思う。たくさんぶつかり合えたおかげで、変わったと思う自分に気付くことができ、変わることができた。

谷川俊太郎さんの残した言葉の一つにこんなものがある。「人と出会ったことで自分とも出会えた」。確かに私は多くの人と出会ったことで自分自身を見つめ直すことができたのだと思う。嫌な自分とも良い自分とも出会うことができた。きっとこれから新しい自分自身と出会うことになるのだろう。

多くの人との交流を通して感じることでできた個性の大切さ。その個性というものは一人ひとり全く違うものだ。もし、みんな同じ性格で、同じ考えだったとしたら、たった一つしかない命の価値が無くなるのではないかと思う。他人の権利、個性を認めること、自分の個性を認めてもらうこと、それらは一人ひとりが生きる証なのではないかと思った。個性を認め合うことで命を粗末にする人も減ってくれると思う。

いじめや殺人事件、自殺など様々な事件はあとを絶たない。そういった事件を起こしてしまった人たちに、それぞれの命がどれだけ尊いものなのか気づいて欲しい。そして命ある限り、一人ひとりがその命を大切にしたい、その人にしかない輝きで満たすことが出来れば素晴らしいと思う。

先程も言った、「人と出会うことで自分とも出会えた」

という言葉の通り、多くの人と出会うことで多くの自分とも出会えるのだと思う。他人との出会いも大切に、自分自身との出会いもそれと同じくらい大切に、好きな自分を育てていけたらいいなと思った。